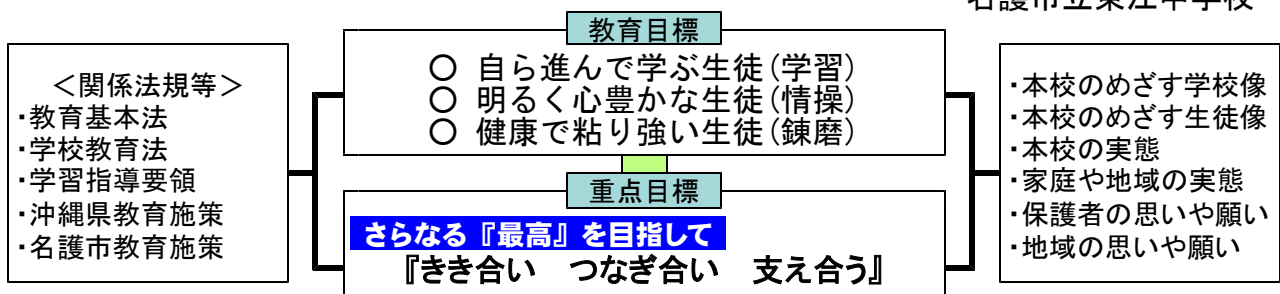


S(Small step, Slowly, Smiley) FRONTIER PLAN 2016

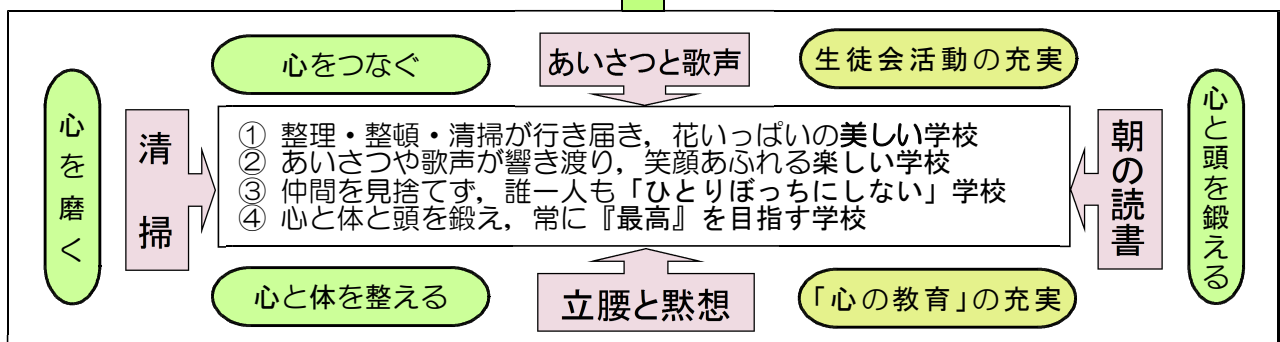
名護市立東江中学校



「学びの共同体」の理念による学校改革 『一人残らず、すべての生徒の学びを保障する』

なぜ、「学びの共同体」か？

- ①「学びの共同体」づくりが、教育目標を具現化し、諸教育活動の充実に向けて、「一点突破」できると考えたため
- ②「学び続ける生徒は崩れない」という理念を基に生徒指導の三機能(自己決定の場・自己存在感・共感的人間関係)を生かして「積極的(予防的)な生徒指導」や「不登校生徒の改善」に繋がると考えたため
- ③教師主導の「教え込む授業」から生徒主体の「生徒の考えから出発する学び」に切り替えることにより、「習得・活用・探究型学習」及び「言語活動」を充実させることができると考えたため
- ④職員同士の「同僚性」を構築し、保護者や地域住民との連携を強化できると考えたため



続けたい授業改善と校内研修

- 教師と生徒とのかかわりを変える
 - 「対話」と「協同」のある学び
 - 「聴く」「つなぐ」「もどす」「ケアする」
 - 積極的な授業公開と生徒の学びの姿を固有名で語る授業研究による同僚性の構築
 - 公開授業研究会等への参加とその共有

ケアリングによる「きき合う学級」づくり

- 生徒と生徒とのかかわりを変える
 - 「コの字型」机配置と小グループ活動
 - 生徒へのケアと生徒同士のケアにより、間違いや多様な考えを認め合う学級づくり
 - 「わからない」「教えて」が誰でも言え、「わからなさ」から始まる深い学びの構築

学校行事・会議等の工夫・改善

- 行事・会議等とのかかわりを変える
 - 教育課程の「量」の確保と「質」の充実
 - 行事・会議等の精選と運営の工夫
 - 週時程・日課表等の工夫・改善
 - 教職員の多忙感の軽減

地域連携の改善・強化

- 保護者・地域とのかかわりを変える
 - 保護者や地域住民の授業や行事等への参加と学校運営(学校評価)への参画の促進
 - 地域行事等への積極的な参加
 - 積極的な情報公開による正しい理解と協力

一点突破

キャリア教育の充実 ⇔ 道徳教育の充実 ⇔ 特別活動の充実 ⇔ 生徒指導の充実 ⇔ 部活動の充実

生徒・保護者・地域に開かれた 地域と共に歩む 地域から「信頼される」「魅力ある」学校

- 学校：「子ども達が学び合う場所としての学校、教師が専門家として学び成長し合う場所としての学校、親や住民が学校の教育活動に参加して、互いに学び合う場所としての学校」(学びの共同体)
- 生徒：「登校するのが楽しい」「授業が楽しく、安心して学び合える」(安心・安全・達成感)
- 保護者：「学校に活気があり、子どもの変容がよく見える」「学校に協力したい」(わった一学校)
- 職員：「一人職を大切に、和やかな職員室」「仕事にやりがいを感じ、何でも相談できる」(同僚性)